式辞

四阿山（あずまや）連峰に見守られ、この歴史ある長野吉田高校にも春のやわらかな光が明るくそそぎ、花の便りに心弾む季節となりました。

この、すべてのいのちが輝く春の佳き日に、ご来賓の皆様、保護者の皆様のご臨席を賜り、令和七年度長野県 長野吉田高等学校の入学式を挙行できますことは、誠に喜ばしく心より御礼を申し上げます。

保護者の皆様、本日は、お子様のご入学、誠におめでとうございます。皆様が大切に育んでこられましたお子様が、長野吉田高校での多様な学びを通して、自らの人生を切り拓く力を一層伸長させることができますよう、本校職員、一丸となって努めてまいります。ご家庭におかれましても、何卒、本校の教育活動にご理解とご支援を賜り、お子様の自立と成長のため、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

さて、新入生の皆さん、あらためまして入学おめでとうございます。皆さんは、校門を通り抜けてすぐ正面にあった石碑に気がつかれたでしょうか。それは、川村驥山先生揮毫の「晴耕雨読」の文字を刻んだものです。校歌にもあるこの言葉は、元々は「晴れた日には田畑を耕し、雨の日は本を読むといった、悠々自適な生活をする」という意味で、のんびりした生活を表しています。しかし、本校の校歌ではこれを「撓（たゆ）まず倦（う）まず　晴耕雨読」と歌っています。つまり、「緩まずに、飽きずに、晴れた日は畑を耕し、雨の日は本を読む」ということで、晴れても雨でも、その時にできる努力をする、という意味に取り直しているのです。そこから更に、体を動かすことと、頭を使う事、両方やりましょうというように考え、「文武両道」という事を、本校は重要視しています。

私も、この文武両道を大いに皆さんに勧めたいと思います。ただし、文武の「武」が意味するのは、体を動かす班活動だけと言うつもりはありません。ある人は文化系の班活動に打ち込むでしょうし、生徒会活動や、探究学習などに打ち込む人もいると思います。過去には、探究学習を発展させてコンクールで受賞した先輩が何人もいます。海外短期留学に挑戦し、良い経験をした先輩も何人もいます。クラブ活動で培った技術を活かして海外で就職した先輩もいます。皆さんも自分に合ったものを見つけ、是非、学問と両立させながら、様々な活動にチャレンジをして欲しいと思います。人が社会で生きていくためには、コミュニケーション力やチームワーク、仲間と共に困難を乗り越える力などが必要です。皆さんには、学校内外で行われる様々な活動を通して、生きる力を育み、皆さんそれぞれの個性を磨いて欲しいと思います。皆さんには、きっとそれができると思います。なぜなら、皆さんには、それを実現している、お手本となる先輩たちがいるからです。また、長野吉田高校は、それができるステージであると思います。なぜなら、皆さんの活動を応援し、導く、熱意のある先生たちがいるからです。皆さんが自分に合った分野で、活躍し、成長できるよう、生徒の皆さんや保護者の皆さんと共に歩んでいきたいと思います。

結びに、保護者の皆さまに重ねてお祝いを申し上げますとともに、新入生の皆さんの本校での生活が充実したものになることを心より祈念して、式辞といたします。

令和七年四月四日

長野県長野吉田高等学校長　　内藤　信一